

平成29年度 事業報告

(通所リハビリテーション)

1) 事業所運営の理念・基本方針

平成 29 年度は健全で透明性のある事業運営を目指し、1 年間業務を遂行してまいりました。「地域包括ケアシステム」の実現化に向け、ケアプラザ主催の地域ケア会議の参加・リハビリ職員による講演会など地域に携わることができました。

営業活動（地域ケアプラザへ出向きパンフレット等の配布、電話での営業）を行い、新規ご利用者様を例年以上に受け入れる事ができました。

職員体制は常勤 6 名体制となり、業務の分担や責任の明確にし、チームワークを持って業務にあたる事ができました。引き続き、「安心と信頼」をすべてのご利用者様に感じていただけるような事業所運営を行っていきます。

2) 管理者の事業に対する考え方

管理者として、「やる気と先頭をきって職員を引っ張っていく」をモットーに 1 年やってきました。

職員・各関係者とは話し合い・営業などで密にコミュニケーションをとることができました。

平成 30 年度は稼働向上・維持ができるように、引き続き、「やる気と強い気持ち」で職員を引っ張っていけるように、努力していきます。

3) 入居者（利用者）の受入（利用）促進計画

昨年同様厳しい稼働状況が続きました。ご利用者様の超高齢化により、中止者・入院者が多くなり、利用の安定化に結びつけることができなかつた。24 名の定員割れしている月も多かつた。

4) 入居者（利用者）のニーズ・要望への対応内容

計画どおり遂行できている。

カンファレンスによる情報共有はもちろん、今年度は積極的にリハビリ職員とリハ訪問を実施し、実際の生活環境を目で見て確認できたこと、また、ご利用者様・ご家族様より生の声を聞くことができ、通所リハビリ計画書が今まで以上にご利用者のご自宅での生活課題に特化した計画書となりました。引き続き、リハ訪問を実施してまいります。

5) 入居者（利用者）の苦情受付体制及び対応に関する考え方

大きな苦情は特になし。ご利用者様同士の小さなトラブルがあり、担当ケアマネを含め、できる配慮と話し合いにてご本人様・ご家族様にはご納得していただき、解決しています。

平成 30 年度も苦情対応について、内部研修で重視し、職員のスキルアップを目指していきます。

6) 事故防止（再発防止）への取り組み

平成 29 年度は事故報告なし。事故防止のためにヒヤリハット集計・勉強会に力を入れてきました。夕方のミーティング等で随時、ヒヤリハットの報告・今後の対応を話し合っており、事故防止に努めていきました。

7) 職員の確保、配置及び育成に対する計画

平成 29 年度は看護 1 名（非常勤）を採用する。今年度は職員ひとり一人のスキルアップを目指してきました。中堅職員が研修担当として、介護保険の基礎から勉強していきました。年度末には全職員の成長を感じることが出来ました。引き続き、スキルアップを目指し、より良いサービスが提供できるように努力していきます。

8) 施設・設備の保守・管理に関する考え方

引き続き、日常的に施設・設備点検を行っていきます。

平成 29 年度は車両の老朽化のために入れ替えを行っていません。また、送迎コースが狭い道路事情もあり、大型車から小型車へ変更しています。

シエンタ⇒タント（中型車椅子使用車⇒軽車椅子使用車）

ボクシー⇒タンク（中型車⇒小型車）

1 年でも長く乗れるように、点検はもちろん大切に管理していきます。

9) 個人情報保護への取り組み

日常的に取り扱う個人情報に関しても、全職員がその保護の意識を持ち、厳重に管理されている。特に大きな問題点もなく、継続して実施してまいります。

1 0) 関係団体・地域団体との連携

通所リハ部会には毎回参加。部会の参加により、平成 30 年度の介護報酬の改正などの情報を瞬時に知ることができ、また、他施設の情報も得ることができ、非常に良かった。

その他、自治会等の参加・非常災害時も連携体制の構築は出来なかったが、地域住民のために、リハ職員による「膝の痛み」についての講演会など 29 年度は実施することができた。地域住民からとても好評だったため、来年も地域のために、講演会等を引き続き行っていきたい。

平成 30 年度の目標とした地域への発信は、達成することができました。

ケアプラザ主催の地域ケア会議の参加・地域の方のためリハビリ講演会など、地域の方の生の声・他のサービス事業者との交流ができ、非常に勉強になりました。1～2 回で終わらせるのではなく、引き続き、平成 30 年度も「もっと恵の杜を知っていただけるように」地域へ発信していきたいと思います。

1 1) 社会資源としての役割について

平成 29 年度は地域ケアプラザと連携し、今年度は地域に住民の悩み・相談を聞く場が多くあり、ニーズを聞くことができました。腰の痛み・膝の痛み等で悩んでいる住民が多くいました。平成 29 年度も地域住民の悩み・相談に積極的に耳を傾け、寄り添って行きたいと思います。

また、「地域ケアシステム」の医療的担い手として、介護予防サービスに力を入れていき、要支援ご利用者を積極的に受け入れていきます。

1 2) 各種委員会・研修の実施に関する考え方

平成 29 年度は中堅職員が研修担当となり、内部研修を実施した。外部研修等は計画を立てるが、実施できず、平成 30 年度は内部研修だけではなく、職員のスキルアップ・資格習得のために、積極的に外部研修に参加していきます。委員会に関しては老健恵の杜の委員会活動に合同参加させていただき（給食・感染）情報の共有と課題等に関し協議させていただきました。

1 3) 実習生・ボランティア受入、育成

実習生の受け入れは平成 29 年度 0 件。

2 ヶ月に 1 度の演奏ボランティアはご利用者様からは好評のため、継続していく。
平成 30 年度はご利用者様から音楽ボランティアをもっと呼んでほしいと要望があり、新規ボランティアの開拓をおこなっていきます。

1 4) 防災・防犯対策避難

事業計画で定めた避難訓練及び研修は実施できている。ご利用者も毎回、避難訓練等に参加しているが、年々スムーズに避難ができるようになってきている。備蓄品に関しては不足品もあり、早急補充していきたい。

車両の防犯対策に関しては、ハンドルロック・タイヤロックを継続して実施していきます。